

オンライン意見収集結果について 令和6年11月30日「市長と語ろう!敬老パス」

従来の意見収集の方法に加え、**様々な課題の解決に向けた意見収集・分析、見える化の実施のため**、他都市でも意見募集の実績がある、AGREEBIT株式会社と連携協定を結び、国内初、世界で唯一、**AIが司会を行うオンラインディスカッションプラットフォーム「D-Agree」**を活用し、**オンライン上での意見収集を実施**いたしました。

国内初、世界唯一 **AI** が自動司会で意見収集・集約 + 見える化を支援 オンラインディスカッションプラットフォーム **D-Agree**



国際出願番号 PCT/JP2019/31183
PCT第22条(1)に基づく指定国移行 ○米国

京大・名工大 発 スタートアップ企業
10年以上に渡るAI・集合知研究から
生まれた『世界唯一のサービス』

開発者は、人工知能、特にマルチエージェントシステム・集合知に関する国際的なトップ研究者



取締役CTO
D-Agree開発者 伊藤孝行

京都大学大学院情報学研究所教授
名古屋工業大学客員教授
元NITechAI研究センター長、情報処理学会フェロー 等々

- ・ AIファシリテート技術でリアルタイムにオンライン上で、議論や意見集約ができ、合意形成支援をするD-Agreeを活用
- ・ オンライン中心で、敬老パス見直しをテーマに対して、住民参加型のディスカッションを実施

意見募集中のテーマ

「敬老優待乗車証（敬老パス）の見直しについて」

募集期間：令和6年11月1日午前9時～11月18日17時

SAPPORO
オンラインディスカッション

～どんなまちにしたい？～
敬老パスの見直しを、皆さんどう思われますか？

皆さんの敬老パスについての意見を送ってください！

実施期間	2024年 11.1 9時 ~ 11.18 17時
参加者	札幌市政に関心のある方
テーマ (予定)	敬老パス（敬老優待乗車証）の見直しについて
参加方法	二次元（コード）より D-Agree のページを開き新規登録またはログインにてご参加ください！

QRコード
ディスカッションベース
city-sapporo

AIが24時間、みんなの意見を集約し、合意形成をサポート

いつでも参加可能！
24時間、好きな時間に参加できます

PC・スマホから参加可能！
お持ちの PC・スマホから簡単に参加できます

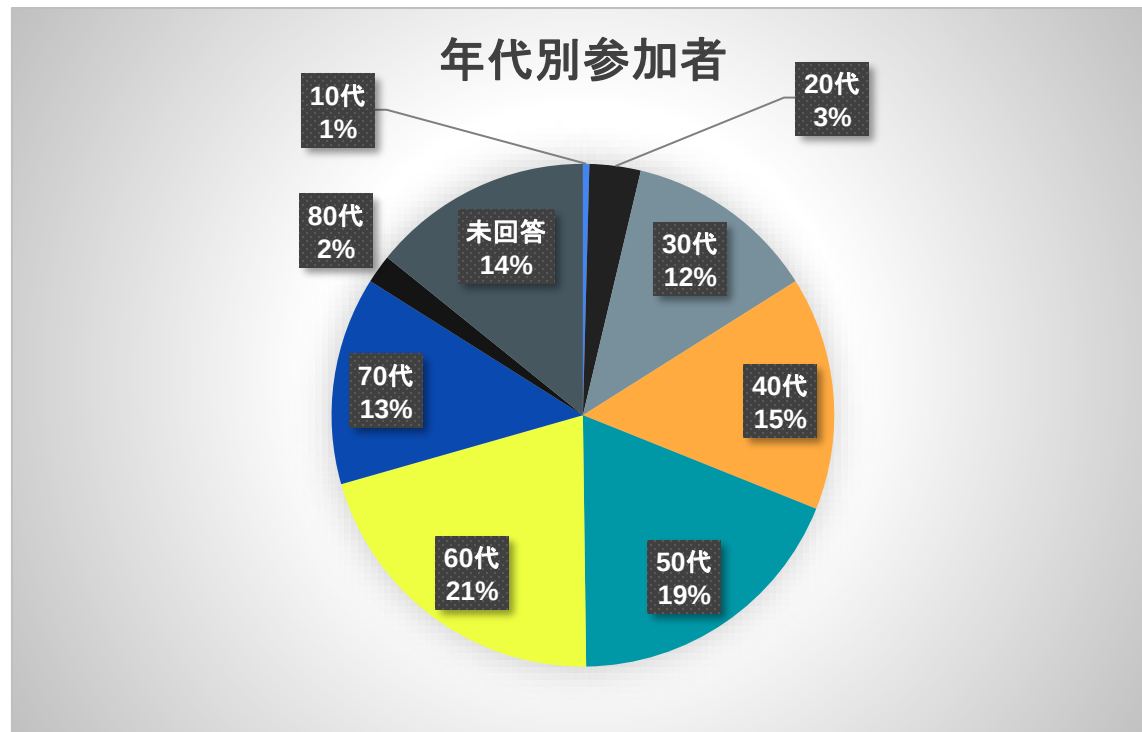
D-Agree とは？
AIによる議論・合意形成を支援する世界唯一の新サービス「D-Agree」
D-Agree は国内、世界中にも唯一となる、AI によるファシリテーションを実現した、インターネット上の議論・合意形成を支援するオンラインディスカッションツール。議論プロセスを AI がサポートして議論が円滑に進み、合意に至るまで、AI が合意形成を支援する。合意に至るまで、AI が合意形成を支援する。合意に至るまで、AI が合意形成を支援する。

お問い合わせは最寄りの
敬老パス専用ダイヤルまで

電話番号：011-240-0800
受付時間：9 時 00 分から 18 時 00 分までは土日・年末年始を除く
※お電話でのご利用は、お電話が通じない場合があります。

D-Agree

5



10代	2
20代	16
30代	60
40代	73
50代	91
60代	101
70代	65
80代	9
未回答	69
計	486

※閲覧のみの人数も含む

順位	単語	回数
1	パス	235
2	敬老	234
3	高齢	222
4	健康	141
5	負担	136
6	必要	99
7	世代	97
8	札幌	91
9	利用	89
10	交通	66

AIによる分析結果一下記8グループに分類

- ①公平性と制度改革（34件）
- ②世代間の理解（45件）
- ③財政と制度改革（34件）
- ④財政と若年層負担（28件）
- ⑤使用者負担の額や割合（9件）
- ⑥高齢者の社会参加と移動（30件）
- ⑦健康寿命と福祉政策（30件）
- ⑧アプリや新技術の利用（8件）

分類別の代表的な意見のまとめ

※分類ごとに、代表的な意見を抽出、発言の内容は変えないようにし
文字数を減らすためにできるだけ原文のまま部分的に短くしています。
そのため発言した方の完全な意図通りではない場合がありますが
ご了承ください。

健康を目的にするなら歩くことを推奨するべきでは？なぜ高齢者だけ？現役世代は安くないの？不公平ではないか？ (20代・男性)

年齢が増すごとに体力などの低下により利用が減ると思われることから、年代別（70歳代、80歳代、90歳以上）の3組み合わせに分け最大交付額を設定しては (70代・男性)

見直しどころか廃止で良い。高齢者が優遇されすぎている。子育てに力を入れるべき。 (30代・男性)

敬老パスについては廃止し、年齢に関わらず所得や貯蓄額など実際の貧困度に基づいた交通費のサポートを求めます。(30代・女性)

敬老パス廃止＝敬老の精神がない、ということではないと思います。限りある予算の中で高齢者と若年層、両方の権利が実現できる方法が見つかるとういですね。(30代・女性)

敬老パスを使用していない高齢者には何の還元もされていないので不公平。一定の年齢から一律で交通費現金支給を。(50代・男性)

多少負担もするが、**負担して当たり前には思わないでほしい**！この状況を作った世代が責任を負うべき (40代・男性)

実質負担側の**現役世代の納得できる条件のもとで実施**すべき (40代・男性)

毎日朝から晩まで**必死に働いて税金を納めてる人達が納得できる支出であってほしい** (50代・男性)

受け取れる年金額が上がらないのに、今回のような見直しをしたら年金生活者の暮らしが苦しくなるだけじゃないか! (60代・男性)

年寄りのお金削るより、他に削れるところがあるんじゃないですかね。 (50代・女性)

敬老の意味から廃止する必要はないと思うが、就職で交通費を貰いながら敬老パスを利用している方がいます。 (60代・女性)

札幌市の将来の人口構造を踏まえると、現在の敬老パスの制度を見直すのは当然のことと考える。(30代・男性)

歳をとった方々の苦難があって今がある。予算逼迫、少子化云々言う前に身を切る改革が必要です。(60代・男性)

今後は敬老パスの該当者に所得制限を設けることも検討されてはどうか？(60代・男性)

待ちに待って今年から敬老パスを頂きました。これから高齢者が増えるのに、今のままでは、財政が持たないのは、理解できます。(70代・女性)

少子高齢化が進んでいる中で現行の制度設計のままだと持続性がないですね。チャージ上限も高すぎですし、自己負担も低すぎます。他都市でも見直しが進んでいますよね。 (未回答・未回答)

シンプルに持続性がないので敬老パスは縮減、という意見は**論点として明快**だと思います。 (40代・男性)

余りにも**乱暴な支給開始年齢の引き上げ**です。**最低でも段階的に引き上げるべき** (70代・男性)

年齢を70歳からにした方が良いと思います。お願いします。 (80代・女性)

敬老パスの上限を下げて、少しでも現役世代の負担を減らして欲しい。 (50代・男性)

上限金額を減額して欲しいです。現役世代は育児にもお金がかかり、生活を維持していくのが精一杯です。**私たちの負担を減らして欲しい。** (40代・女性)

自立していない小学生の半額は親が負担しています。年金や貯蓄で各々自立している高齢者がそれと同額で良いのでしょうか？**悲しくなります。** (50代・男性)

我々高齢者にお金をかけるよりも若い方々にお金をかけていただき、夢や希望の持てる北海道に向かって行くのがより正しい方向性だと思います。(60代・男性)

敬老パス自体は存続しても良い。本当は負担額を半額以下にして欲しいが、財政が圧迫している状況であればこれからの未来のためにも25%負担が良いとは考える(30代・女性)

敬老パスの見直しは必要だと思う。お年寄りの方が今後増える傾向なので、このままの制度では財政も圧迫すると考える。(60代・男性)

良い政策だと思いますが、利用者の負担をもっと少なくすべき年収の少ない方が多いので**負担額を低く**
てより細かなレンジにすべき (60代・女性)

1割→2割、2割→3割のように**自己負担割合を**
増額することはやむを得ない。日常生活に必要な
買い物や受診等の回数をもとに月額を算出するな
ど、**障がい者と変わらない補助**があってもいい (60
代・女性)

今のままの制度設計では、財政的に無理があるのは理解できます。**75才以上からは、賛成です。**ただ、**5割の負担は大きく賛成できません。**車の免許の返上にプレミアを付けて**3割負担位なら賛成です。**（70代・女性）

元気でいられる70歳からにして1000円で3000円分使えるとかにしたら市の負担が軽減されると思う。（60代・女性）

75歳からでは遅すぎると思うので70歳から上限2万円から1万円くらいで良いのではと思います。（70代・女性）

働くことができない**高齢者は、交通費が高いと出**
かけなくなりますし、病院や買い物も行きづら
くなります。身体が衰えて生活の質が下がり要支援
や要介護の時期が早まり、結果的により多くの税
金がかかるのではないかと思います。（未回答・未回答）

必要な人もいるかもしれないけど、**元気な高齢者**
のためには必要ない。誰かの支援が必要とか、**病**
院、役所などのどうしても必要な移動の時にしか
使えないようにしてほしい。（30代・男性）

バスの路線や本数が減らされる中で利用可能なのか？同額をタクシークーポンに変えた方が利用価値は上がります。（60代・男性）

出来れば現状維持。予算不足であれば、上限4万円でタクシー等移動手段を活用できるように希望します（70代・男性）

高齢者の運転免許返納を促進するため、JRの利用を付加して欲しい。（70代・男性）

健康寿命は、長年の積み重ねです。若い頃から健康に留意した生活が続けなければなりません。**皆さんがそういう考えと行動になるきっかけに、この度の見直し**がなければ良いと思います。（50代・男性）

敬老パスがあるからといって健康寿命は伸びないのでは？敬老パスは**予定通り廃止**して、**外出の動機**作りにあてたほうがよいと思います。（30代・女性）

高齢者の寝たきりを防ぐ為にも敬老パスは有用かとおもいます。その為にも現状の70歳から開始が妥当かと思いますが金額の上限は高額すぎるかとおもいます (70代・女性)

健康寿命が維持されなければ、医療費の増大は免れない。高齢者の健康寿命が維持されると、介護負担も減り、高齢者のメリットだけでなく、介護者世代も負担が減ります。 (40代・女性)

健康増進アプリは**具体的な説明がなく**、意見も申し上げられません。ぜひ具体的な説明をお願いするとともに、**後期高齢者だけでなく、幅広い市民の意見を聴いて下さい**。(70代・男性)

アプリを使えば健康増進になるというのも**短絡的**です。アプリ制作費用も多額です。全体的なお金の使い方を示し、**市民に意見を求めるべき**と考えます。(60代・未回答)

具体的な解決策は「**アプリをやらない**」一択です。
(未回答・未回答)

アプリは不要です。高齢者パスは必要です。 (50代・女性)

歳を取れば誰しも機械に疎くなります。なので**ポイント制は、反対です。** (40代・女性)

健康アプリに関しては**年齢制限をゆるくしてほしい**です。 (30代・女性)

将来のことを考えて**敬老パスは縮小・廃止の方向で**進めてもらいたい。**健康アプリについては全面的な支持します。** (20代・男性)

1. 高齢者優遇に対する公平性の問題

他の世代（子育て中の世代や若者）も負担が大きいのに、支援が少ないと指摘。
例: 敬老パスが9割引なのに、学生や現役世代の交通費は一部しか補助されない。
全世代に公平な支援を行うべき、または高齢者も一定の自己負担をするべき。高齢者も半額負担や自己負担額を増やす。支援を所得や貯蓄額などの経済状況に基づいて行う。子育て支援や若年層への投資を重視するべき。

2. 敬老パスの制度改革案

高齢者全員に一律で支給するのではなく、必要な人だけに絞るべき。制度が財政的に継続不可能であり、早急に改善が必要。利用時間の制限: 通勤通学時間を避けた10時～16時だけに利用可能に。年齢や利用頻度で上限額を設定（例: 70代、80代、90代で異なる額に）。完全廃止して、他の必要な分野（例: 除雪対策や健康促進）に予算を回す。貧困層や交通が必要な人だけに現金支給する形に変更。

1.現役世代の負担への不満

敬老パスの財源が若い世代の税金で賄われていることへの不満が多いです。若い世代が物価高や生活の厳しさに苦しむ中、高齢者の優遇が不公平に感じる。高齢者自身が交通費を負担するのが当然ではないか？現行制度は元気な高齢者が娯楽目的で使うことが多く、不満の原因になっている。

2.高齢者世代の権利や敬老パスの意義の主張

敬老パスは長年税金を払ってきた高齢者が受けるべき権利だと主張。高齢者も以前はたくさん税金を払ってきたのだから、今の世代だけが負担というのはおかしい。免許返納を促す制度としても敬老パスは必要。高齢者の生活を苦しめることにつながる見直しには反対。

3.中間的・調整的な意見

制度見直しは必要だが、すべてを廃止するべきではないという意見。制度を縮小して、通院など本当に必要な場合だけに使えるようにすれば良い。所得制限や年齢制限を設け、支援が必要な人にだけ提供すべき。高齢者だけでなく、若い世代にも公平にメリットがあるように制度を変えるべき。

1.財政を重視する視点

札幌市の人口は高齢者が増え、働く世代や子どもの数が減るため、今のままの敬老パスの制度を続けるのは難しいという意見。このままだと、若い世代に負担が大きくなりすぎるため、利用者の自己負担額を増やしたり、対象年齢を引き上げたりするべきだという声がある。また、札幌市は健康寿命を延ばす政策も進めており、その方針は正しいという支持もある。

2.制度維持や改善を求める視点

高齢者の外出を支える敬老パスは重要であり、現行制度を守るべきだという意見も多くある。急に対象年齢を75歳に引き上げるのは厳しすぎるので、段階的に変更する方法が良いのではという案や、所得制限を設けることで公平性を高めるべきだという意見もある。また、健康増進を目指す新しい仕組み（健康アプリ）を敬老パスと一緒にするのは不適切で、それぞれ別々に議論するべきだという声も多い。

3.行財政改革を求める視点

敬老パスの見直しを進める前に、市役所が「自らの無駄を省く改革」を行うべきだという意見があり、たとえば、職員数の見直しや市議会議員の人数削減などが提案されている。また、札幌市は大きな公共事業や新しい取り組み（健康アプリなど）にお金を使う一方で、市民への十分な説明がないことが問題視されている。市の運営が市民の意見を反映していないという不満も見られる。

1.財政の視点

お金が足りなくなってしまう可能性がある。札幌市は、雪かきや学校、バスなどに使うお金も必要。でも、お年寄り用のパスにかかるお金が多すぎると、他のことに使うお金がなくなってしまう。だから、パスをどうするかを見直すべきだという意見がある。もっと無駄を減らして、お年寄りだけでなく、みんなに公平になるように工夫が必要だと言われている。

2.若年層負担の視点

今、働いている若い人たちは、自分たちのお給料からお年寄りを助けるお金を払っている。でもその負担が年々増えて、生活が苦しいと感じる人が多い。若い人たちの生活を楽しませてあげてほしい、お年寄りも少し負担してほしいという声がある。

3.お年寄りの利用や公平性に関する視点

敬老パスを持っても、あまり使わないお年寄りもいる。だから、もっと必要な人だけがしっかり使える仕組みにしたほうがいいのでは、という意見がある。お金がたくさんあるお年寄りもいるので、そういう人は自分で払える分を払う仕組みにしてほしいという声もある。

1. 使う人によって負担を変える視点

上限額や負担割合を引き上げる工夫が必要。利用上限額をもっと低くしたり、利用するほど自己負担が増える仕組みが良い。自己負担割合の増加はやむを得ない。現在の1割負担を2割や3割にすることは仕方ない。上限額は必要最低限の生活に基づいて計算されるべき。

2. 利用ルールを工夫する視点

毎月使える金額に上限をつけたり、みんなが納得できる金額に調整したりする提案がある。日常生活に必要な範囲や年齢に応じて、使いやすいしくみを作るべき。

3. 続けるための工夫をする視点

今のしくみはとても便利だけど、これから利用する人が増えるとお金が足りなくなる。そのため、負担を少しずつ増やしたり、新しいアイデアを取り入れて無理なく続けられるようにする必要がある。でも、急に変えると困る人もいたので慎重に進めるべきですという意見がある。

1. 敬老パスは高齢者の健康や生活に大切という点

敬老パスを使えば病院や買い物に行きやすく、高齢者が外出することで元気になり、介護や医療費が減らせるかもしれない。家に引きこもると体や心が弱ってしまい、結果的に税金の負担が増える可能性がある。高齢者が外出することで街の経済も活性化する。

2. 様々な見直しをする視点

現在の制度をすぐ廃止するのではなく、段階的に縮小したり、年齢制限を設ける（例: 80歳以上にする）方法が良いかもしれない。病院や必要な移動だけに使えるクーポン方式や、タクシーを使いやすくする案も検討できる。朝や土日以外の時間に限定して無料乗車を認める方法も考えられる。

3. 敬老パスに頼らなくても健康を維持できる方法

家の周りを歩いたり、地域活動に参加したりすれば、交通費を使わなくても健康を維持できる。現在の70代は昔に比べて元気な人が多いので、健康な人はパスがなくても自分で動けるのでは？高齢者の娯楽を楽しむ方法は他にもあるので、必ずしも敬老パスだけが必要とは限らない。

1. 敬老パスは健康寿命を伸ばすのに役立つか？

敬老パスはおじいちゃん、おばあちゃんが外に出やすくなるための助けになっている。外に出かけるきっかけがあれば元気になれるけど、目的がなければ使わないかもしれません。運賃を助けるのもいいけれど、外出する理由や楽しみを作る方がもっと大切だという意見がある。

2. お金や政策のバランスの問題

敬老パスにかかるお金は多すぎるという意見がある。全員に配るのではなく、本当に必要な人にだけ渡せばもっと良いのでは？という考えもある。高齢者が元気でいれば、医療費や介護の費用が減るので、みんなの負担も軽くなるという意見がある。

3. 健康寿命を伸ばすための視点

敬老パスを使って外に出るだけで健康寿命が伸びるわけではなく、目的を持って出かけたり、健康を意識した行動をすることが必要。敬老パスは高齢者が外に出るきっかけを作りやすくする道具として役立つ。外に出かけて歩くことが増えれば、健康寿命を伸ばす助けになるかもしれないという意見がある。

1. アプリや新技術に否定的な意見

敬老パスや現行制度の維持を優先し、アプリなどの新しいシステムには反対。アプリ開発やメンテナンスには莫大な費用がかかる。そのお金を高齢者向け交通補助（敬老パスなど）に回すべき。アプリを使うには技術的な課題やセキュリティの不安が多い。健康アプリの効果は長期的に見ないと分からず、初年度の利用者も元々健康な人が多いと予想される。経費の無駄が大きく、健康意識が高い人はすでに他の民間アプリを利用している。

2. 現行制度の改善と慎重なアプローチを求める意見

アプリの可能性を完全否定するわけではないが、現行制度を見直しつつ慎重に進めるべき。敬老パスの廃止には反対。ただし、今後の財政状況を考え、制度の見直しはやむを得ない。アプリを導入する場合、現在のスマホに限定せず将来的な技術進化を考慮する必要がある。システム導入の際には利用者の年齢層やニーズを十分に調査すべき。幅広い市民の意見を求めるべき。

3. アプリや新技術を活用した試みを評価する意見

健康促進や市民の利便性向上のため、アプリなどの新技術を活用するのは良いアイデア。実際に既存の健康アプリを使って運動機会が増えたなどのポジティブな体験がある。完全に新しいアプリを作るのではなく、既存のアプリと提携することでコスト削減や効果的な活用が期待できる。健康アプリは高齢者だけでなく、若い世代の健康寿命を伸ばすための仕組みとしても役立つ。